

# 野村万作 新狂言の会

いつの世も、おもしろい。

600年という時間の中で磨かれた  
狂言の表現技術は、現代においても、  
たくさんの人々を楽しませています。

演目 狂言「咲嘩 さっか」「二人袴 ふたりばかま」

出演 野村万作 野村万之介 野村萬斎 石田幸雄 ほか



2010.8.25 |水| 開場18:30 開演19:00

黒部市国際文化センター コラーレ | 野外能舞台 400席限定 |  
一般 6,000円 高校生以下 2,000円 障害者手帳をお持ちの方 5,000円

□当日は18時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただきます。チケットはコラーレだけで発売いたします。  
◎この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。◎未就学児の入場はご遠慮願います。◎公演中の一時保育(無料)を希望される方は事前にご連絡ください。  
◎雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。天候によっては、会場がカーターホールに変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

主催：財団法人黒部市国際文化センター 助成：財団法人地域創造 共催：北日本新聞社 協賛：チューリップテレビ 後援：黒部市 黒部市教育委員会



# MANSAKU NOMURA TAKIGI KYOGEN



宝くじは  
豊かさ築く  
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

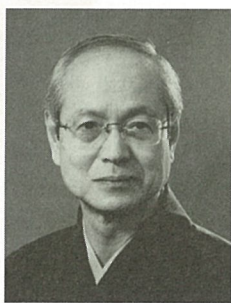
闇に浮かび上がる能舞台、水面に揺らめく二本のかがり火、野村万作・萬斎親子が舞い謡う――。

## 現代にも通じる 人間讃歌の劇『狂言』

コラーレでの薪狂言の会も、本年で十五周年を迎えるとのこと、誠におめでとうございます。観客と演者が共に自然の中で交流できるすばらしいこの催しが、十五年続いてきたのは、観客はもちろん、支えるスタッフの熱意あつてのことと思います。

今回は「咲嘩」と「二人袴」というポピュラーな二演目をご覧頂きます。現代にも通じる人間讃歌の劇『狂言』の、美しき、面白き、おかしさを再認識して頂き、二十周年に向けて、伝統演劇『狂言』の普及発展に取り組んで頂ければ幸いです。

### 野村万作



野村万作 狂言師

一九二一年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞など、多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組む。代表作に「月に憑かれたヒコ」(子午線)、「秋江」(法螺持)などがある。著書に「太郎冠者を生かす」(白水社)、「狂言三人三様」(岩波書店)がある。

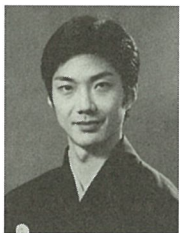
野村万之介 狂言師

一九三九年生。故六世野村万蔵の五男。父に師事。重要無形文化財総合指定者。「万之介狂言の会」主宰。狂言界の代表的演者の一人。芸術選奨文部大臣新人賞受賞。亡父の洒脱さを継承した芸には定評がある。「万作の会」の重要メンバーとして、海外公演にもたびたび参加。また、東京大学、早稲田大学の狂言サークルを指導して久しい。



野村萬斎 狂言師

一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言でざる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞等を受賞。著書に「萬斎でござる」(MANSAI)◎「解体新書」(朝日新聞社)、「狂言三人三様」(野村萬斎の巻)◎(岩波書店)等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。



石田幸雄 狂言師

一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の三番受「釣狐」「花子」をすでに初演。また新しい試みの舞台にも意欲的な発表が多い。普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。日本大学芸術学部、学習院大学非常勤講師。「雙ノ会」で二〇〇六年度芸術祭大賞を受賞した。



## 薪狂言 番組

解説 石田幸雄

### 火入れの儀

狂言 咲嘩 さっか

連歌の宗匠を頼むため、都の伯父を連れて来るよう主人に命じられた太郎冠者。都へ行くと、伯父と名乗る男が声を掛けるのでさっそく連れて帰りますが、この男、実は「見乞の咲嘩」という有名な詐欺師。正体に気付いた主人は、咲嘩を穩便に帰らせるよう言いつけますが、太郎冠者の勘違いで、事態はどんどんトンチンカンな方向に……。

いかにも狂言らしいおかしみのある作品です。憎めないキャラクターの太郎冠者を中心に織りなす、とぼけたやり取りをお楽しみください。

太郎冠者 野村萬斎 主 高野和憲  
咲嘩 野村万之介 後見 岡聡史

狂言 二人袴 ふたりばかま

今日は智入り(結婚後、妻の実家に初めて挨拶に行くこと)の日。舅の家では準備を整え、智が来るのを心待ちにしています。一方の智は、一人で行くのは心細いからと父親に舅の家の門前まで付き添われてやってきます。智に礼装の長袴をはかせてやり、父は表で待つていたのですが、太郎冠者に見つけられてしまい、父親も舅に挨拶することになってしまいます。しかし、長袴は一つだけ。さて、この親子はどうやってこの場を切り抜けるのでしょうか……。

親 野村万作 舅 石田幸雄  
太郎冠者 深田博治 智 野村遼太  
後見 月崎晴夫